

## 農地所有適格法人報告書

令和〇〇年〇〇月〇〇日

富山市農業委員会会長 宛て

主たる事務所の所在地 富山市新桜町〇番〇号  
名称及び代表者氏名 農事組合法人富山ファーム  
代表理事 富山 太郎  
(電話番号) 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

電話番号の公表（可）・不可）

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

市民の方から事務局に農地の相談等があった場合、公表可能な電話番号であれば「可」に〇を、公表できないのであれば「不可」に〇を記入

## 記

## 1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名	農事組合法人富山ファーム 代表理事 富山 太郎		
主たる事務所の所在地	富山市新桜町〇番〇号		
経営面積 (ha)	所有農地の有無	<input checked="" type="radio"/> 有	・ 無
	田	25.0	
	畑	0.5	
	採草放牧地		
法人形態	農事組合法人		
法人の設立国（設立準拠国）	日本		

注. 農地を所有している法人は、法人の設立国（設立準拠国）を記入  
※外国法人の場合は、法人の設立準拠国が記載された書面の添付が必要

## 2 農地法第2条第3項第1号関係

## (1) 事業の種類

区分	農業		左記農業に該当しない事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
実績	米、麦、大豆	農作業受託	注. 農事組合法人は農業のみ
翌事業年度の計画	米、麦、大豆	農作業受託	

## (2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
報告対象年度の2年前（実績）	28,250,857円	注. 農事組合法人は農業のみ
報告対象年度の1年前（実績）	29,090,744円	
報告対象年度（実績）	30,087,012円	
翌事業年度の計画	30,000,000円	

注. 実績は1円単位まで記入。

3 農地法第2条第3項第2号関係

**原則年間150日以上農業に従事する者**

構成員全ての状況

(1) 農業関係者(権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等)

**注. 農地を所有している法人の場合は、事業年度の最終日における国籍等を記入  
(※住民票、在留カード、在留資格認定証明書等の写しの添付が必要)**

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数	構成				農作業委託の内容
					農地等の提供面積 (㎡)		農業への年間従事日数		
					権利の種類	面積	直近実績	翌事業年度の計画	
富山 太郎	富山市〇町〇番地	日本		1	賃借権	10,000	360	360	作業委託
立山 次郎	富山市△町〇番〇号	日本		1	賃借権	8,000	360	360	
剣 岳夫	富山市□町〇番地	日本		1	賃借権	5,000	150	150	
松川 桜子	富山市〇町△番地	ベトナム	永住者	1		3,000	0	0	

**注. 全組員を記入。多い場合は別紙作成**

議決権の数の合計

〇〇〇

農業関係者の議決権の割合

100%

**注. 農業関係者の割合は過半でなければならない**

その法人の行う農業に必要な年間総労働日数 : 870日

**注. 全組員の労働日数の合計を記入**

(2) 農業関係者以外の者 ((1)以外の者)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数

議決権の数の合計

農業関係者以外の者の議決権の割合

%

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号及び第4号関係

(1) 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての

**注. 農地を所有している法人の場合は、事業年度の最終日における国籍等を記入  
(※住民票、在留カード、在留資格認定証明書等の写しの添付が必要)**

**企画管理等を含む従事日数**

**農業への従事日数のうち、耕うん、刈取り等耕作または養畜の事業に直接必要な作業の従事日数**

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への年間 従事日数	
					直近実績	翌事業年度の 計画	直近実績	翌事業年度の 計画
富山 太郎	富山市○町○番地	日本		代表理事	360	360	360	360
立山 次郎	富山市△町○番○号	日本		理事	360	360	90	90
剣 岳夫	富山市□町○番地	日本		理事	150	150	0	0

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

**注. 役員が過半が農業に常時従事(年間150日以上)すること**

**注. 1人以上が農作業に従事(年間60日以上)すること**

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への年間 従事日数	
					直近実績	翌事業年度の 計画	直近実績	翌事業年度の 計画
<p><b>注. 役員で農作業に従事する者がいない場合、重要な使用人が従事すること</b></p>								

(記載要領)

- 1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。
  - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
    - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
    - イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
    - ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
    - エ 農業生産に必要な資材の製造
    - オ 農作業の受託
    - カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
    - キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給
  - (2) 農業と併せ行う林業
  - (3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 2 「2(1)事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 3 「2(2)売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
- 4 「3(1)農業関係者」には、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。

ここで、複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「3(1)農業関係者」の「農地等の提供面積(㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。
- 6 2、3及び4の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。
- 7 2の翌事業年度の計画、3の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに4の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください(ただし、3の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の100分の5以上を有する株主又は出資の総額の100分の5以上に相当する出資をしている者に限る。)

国籍等は住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の45に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は「日本」)を記載してください。

なお、4(2)については、4(1)の理事等のうち、法人の農業に従事する者(原則年間150日以上)であつて、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に規定する日数(原則60日)以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。

農地所有適格法人報告書

令和 年 月 日

富山市農業委員会会長 宛て

主たる事務所の所在地 富山市新桜町〇番〇号  
 名称及び代表者氏名 株式会社とやま農産  
 代表取締役 富山 太郎  
 (電話番号) 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

電話番号の公表 (  可 ) ・ 不可 )

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

市民の方から事務局に農地の相談等があった場合、公表可能な電話番号であれば「可」に〇を、公表できないのであれば「不可」に〇を記入

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名	株式会社とやま農産 代表取締役 富山 太郎	
主たる事務所の所在地	富山市新桜町〇番〇号	
経営面積 (ha)	所有農地の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
	田	25.0
	畑	0.5
	採草放牧地	
法人形態	株式会社	
法人の設立国 (設立準拠国)	日本	

注. 農地を所有している法人は、法人の設立国 (設立準拠国) を記入  
 ※外国法人の場合は、法人の設立準拠国が記載された書面の添付が必要

2 農地法第2条第3項第1号関係

(1) 事業の種類

区分	農業		左記農業に該当しない事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
実績	米、野菜、花卉	農産物加工販売	造園
翌事業年度の計画	米、野菜、花卉	農産物加工販売	造園

注. 農業以外も全て記入

(2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
報告対象年度の2年前 (実績)	28,877,222円	2,500,771円
報告対象年度の1年前 (実績)	29,080,112円	3,880,070円
報告対象年度 (実績)	30,024,055円	3,510,241円
翌事業年度の計画	31,000,000円	4,000,000円

注. 農業の売上げが過半でなければならない  
 実績は1円単位まで記入

3 農地法第2条第3項第2号関係

原則年間150日以上農業に従事する者

構成員全ての状況

(1) 農業関係者(権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等)

注. 農地を所有している法人の場合は、事業年度の最終日における国籍等を記入(※住民票、在留カード、在留資格認定証明書等の写しの添付が必要)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数	構成員				農作業委託の内容
					農地等の提供面積 (㎡)		農業への年間従事日数		
					権利の種類	面積	直近実績	翌事業年度の計画	
富山 太郎	富山市〇町〇番地	日本		1	賃借権	10,000	360	360	作業委託
立山 次郎	富山市△町〇番〇号	日本		1	賃借権	8,000	360	360	
剣 岳夫	富山市□町〇番地	日本		1	賃借権	5,000	150	150	
松川 桜子	富山市〇町△番地	ベトナム	特別永住者	1		3,000	0	0	

注. 全構成員を記入。多い場合は別紙作成

議決権の数の合計

95

農業関係者の議決権の割合

95%

その法人の行う農業に必要な年間総労働日数：870日

注. 全構成員の労働日数の合計を記入

(2) 農業関係者以外の者 ((1)以外の者)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等	在留資格又は特別永住者	議決権の数

議決権の数の合計

5

農業関係者以外の者の議決権の割合

5%

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地  
(1) 理

注. 農地を所有している法人の場合は、事業年度の最終日における国籍等を記入  
(※住民票、在留カード、在留資格認定証明書等の写しの添付が必要)

企画管理等を含む  
従事日数

農業への従事日数のうち、  
耕うん、刈取り等耕作または  
養畜の事業に直接必要な  
作業の従事日数

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への年間 従事日数	
					直近実績	翌事業年度の 計画	直近実績	翌事業年度の 計画
富山 太郎	富山市○町○番地	日本		代表取締役	360	360	0	0
立山 次郎	富山市△町○番○号	日本		取締役	360	360	0	0
剣 岳夫	富山市□町○番地	日本		取締役	150	150	30	30

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

注. 役員の過半が  
農業に常時従事  
(年間 150 日以上)  
すること

注. 1人以上又は下  
記(2)の使用人が農  
作業に従事(年間 60  
日以上)すること

氏名	住所	国籍等	在留資格 又は特別 永住者	役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への年間 従事日数	
					直近実績	翌事業年度の 計画	直近実績	翌事業年度の 計画
雄山 三郎	富山市○町○番○号	日本		農場長	360	360	360	360

注. 役員で農作業に従事する者がいない場合、  
重要な使用人が従事すること

(記載要領)

- 1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。
  - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
    - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
    - イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
    - ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
    - エ 農業生産に必要な資材の製造
    - オ 農作業の受託
    - カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
    - キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給
  - (2) 農業と併せ行う林業
  - (3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 2 「2(1)事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 3 「2(2)売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
- 4 「3(1)農業関係者」には、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。

ここで、複数の承認会社が構成員となっている法人にあつては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「3(1)農業関係者」の「農地等の提供面積(㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。
- 6 2、3及び4の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。
- 7 2の翌事業年度の計画、3の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに4の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください(ただし、3の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の100分の5以上を有する株主又は出資の総額の100分の5以上に相当する出資をしている者に限る。)

国籍等は住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の45に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は「日本」)を記載してください。

なお、4(2)については、4(1)の理事等のうち、法人の農業に従事する者(原則年間150日以上)であつて、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第8条に規定する日数(原則60日)以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。